



13 人麿明石眺望図 土佐光起

一幅

絹本着色 江戸時代(十七世紀)
本紙四一・〇×八一・五

土佐光起は、承応三年(一六五四)に宮廷絵所預となつて内裏造営に参加し、土佐派の再興を果たした画師である。鶉の絵を中心に、花鳥画を得意とし、人物も多く描いている。画論『本朝画法大伝』を著し、土佐派の画法研究に大きく寄与した。

本図は宮廷歌人柿本人麿の有名な和歌「ほのぼのと明石のうらの朝霧にしま隠れ行く舟をしぞ思ふ」(古今和歌集「巻九」)を絵画化したものである。右上には遠くにかすむ島影に隠れる帆かけ舟、左下には二人の供を連れて松樹の下にたたずみ、遠くの島影を眺める人麿の姿が描かれる。ゆったりとした画面空間、自然と人との穏やかな調和は、伝統的なやまと絵技法によつて、叙情性を十分に表している。

左下に「土佐左近衛将監光起図之」の落款と、「光起之印」の白文方印があることから、左近衛将監の宣旨を受けた承応三年から法橋に叙せられる天和元年(一六八一)までの間の作品であると考えられる。

『土佐派絵画資料』(京都市立大学芸術資料館蔵)の絵巻粉本には、元禄十三年(一七〇〇)記の「和歌浦絵巻」があり、本図を左右反転させ、遠景に飛鳥などを加えた図様がある。また光起の後を継いだ光成の作品「住吉浦図」は、本図の構図をもとにしたものと考えられ、土佐派においても、それまでの絵師の図様を受け継ぎながら、さらに自分の個性をその中に表現して展開させていったことが窺える。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

江戸の美意識 — 絵画意匠の伝統と展開

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 28

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十四年三月二十六日発行

© 2002. Museum of the Imperial Collections